

【目的】

新型コロナウイルス感染症拡大により、病院の外来患者数、病床稼働率は大きく変化した。感染症法の位置づけが5類になり、外来や病棟の患者数の状況はどう変化したか。医療圏ごと、病棟機能別に分析し、数値として把握することを目的とする。

【対象】

宮城県内の26日精協支部会員病院

【期間】

2023年5月8日～5月17日、2024年4月1日～4月5日

【内容】

アンケート1回目（2017年度～2022年度）
外来患者数、病棟機能別患者数・稼働病床率
アンケート2回目（2023年度）
外来患者数、病棟機能別患者数・稼働病床率

【方法】

調査票・公表資料による調査分析、外来は全県、医療圏ごとで集計。病棟は全県、医療圏ごと、病棟機能別ごとに集計。
2017.4.1～2020.3.31の3年間を「**コロナ前**」
2020.4.1～2023.3.31の3年間を「**コロナ期**」
2023.4.1～2024.3.31を「**コロナ後**」とした。

【まとめ】

1回目 18病院（回収率72%） 2回目 26病院（回収100%）

【外来患者数の状況】

図1 新型コロナウイルス感染症が令和4年5月に感染症法上の位置付けが5類感染症になったが、令和5年度の外来患者数は97.1%で、年間患者数として12,000人程度減少したままで、コロナ前に戻っていない。

図1 宮城県全域・仙台市内

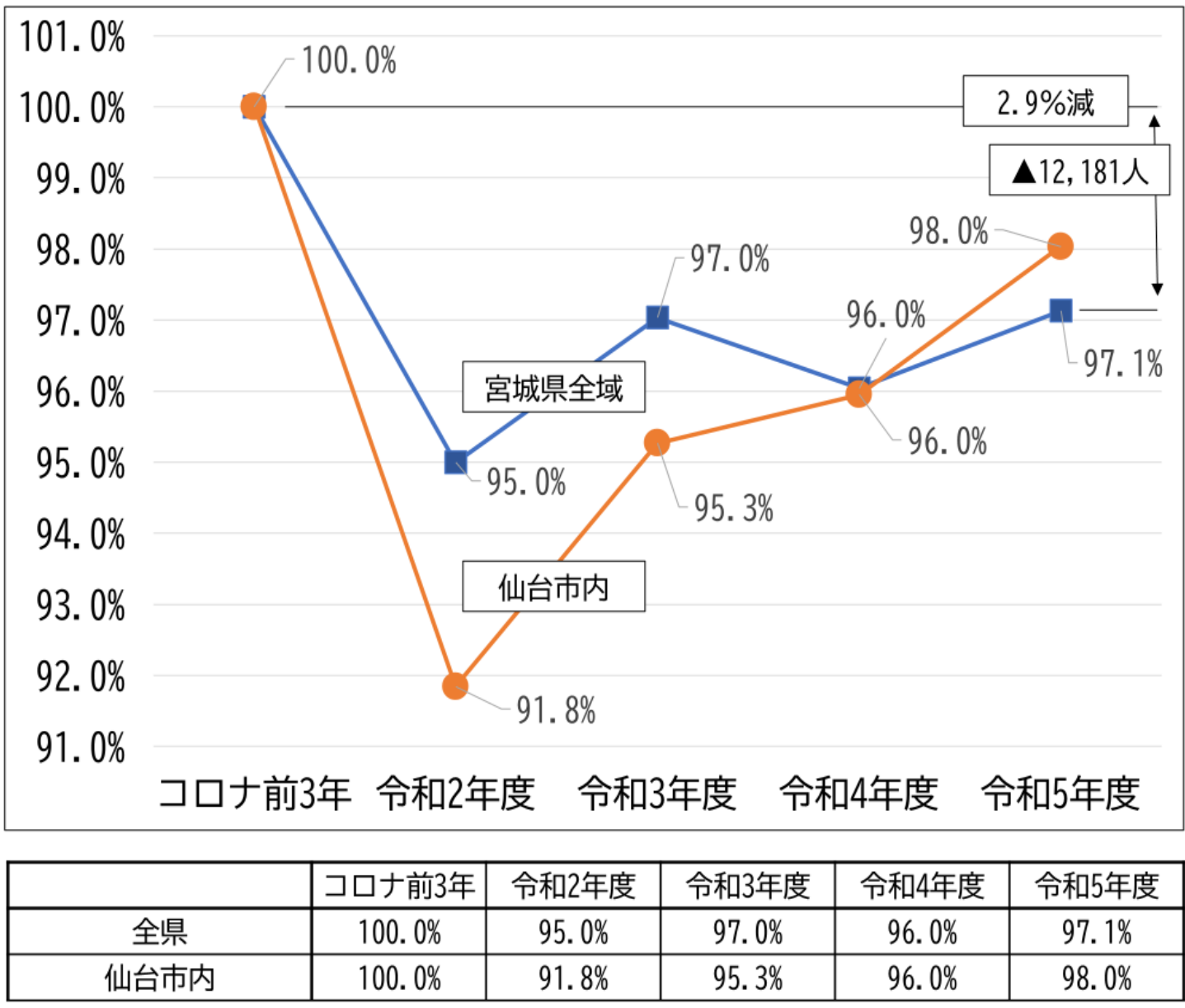


図2 医療圏別

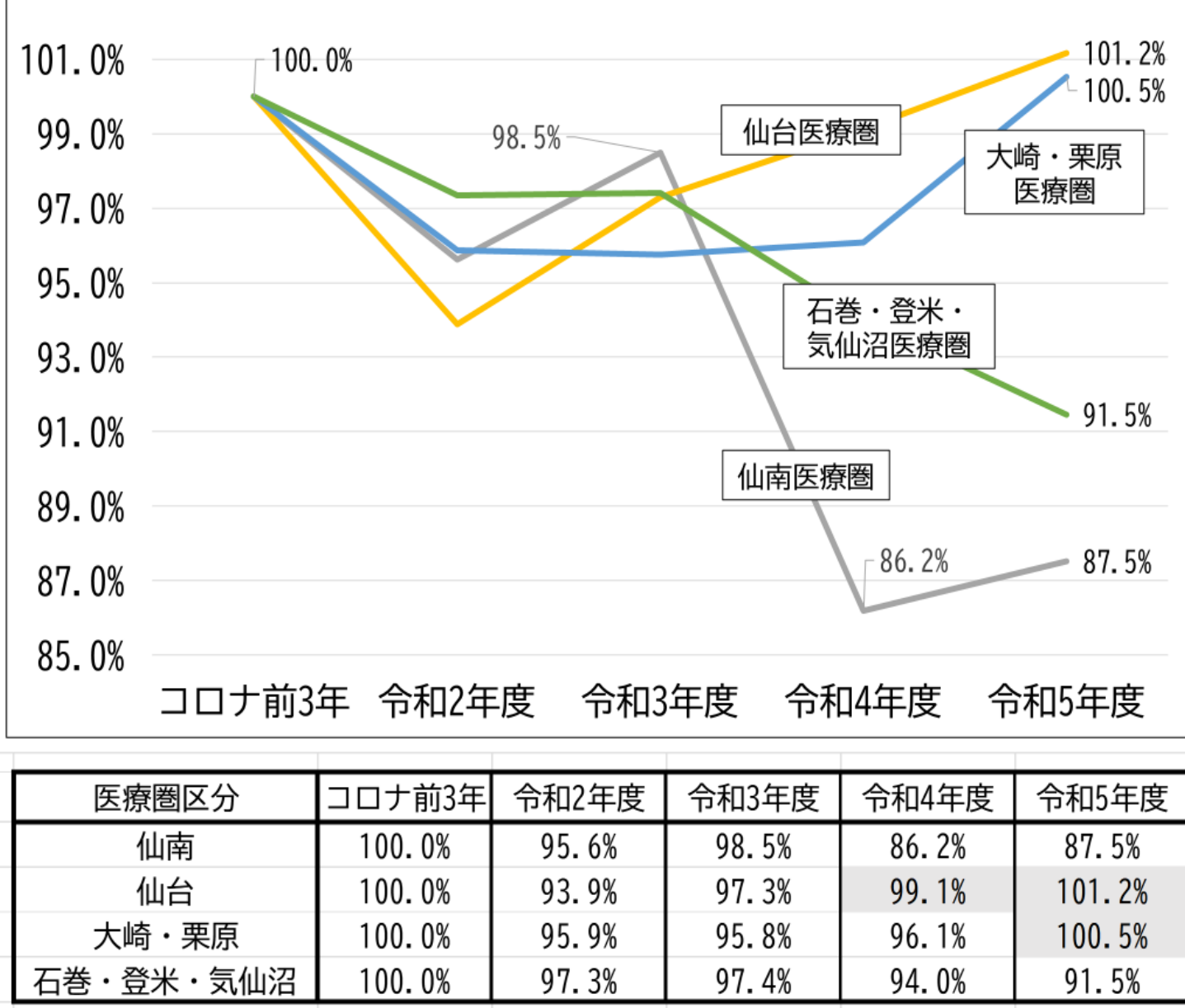


図3 病院機能別

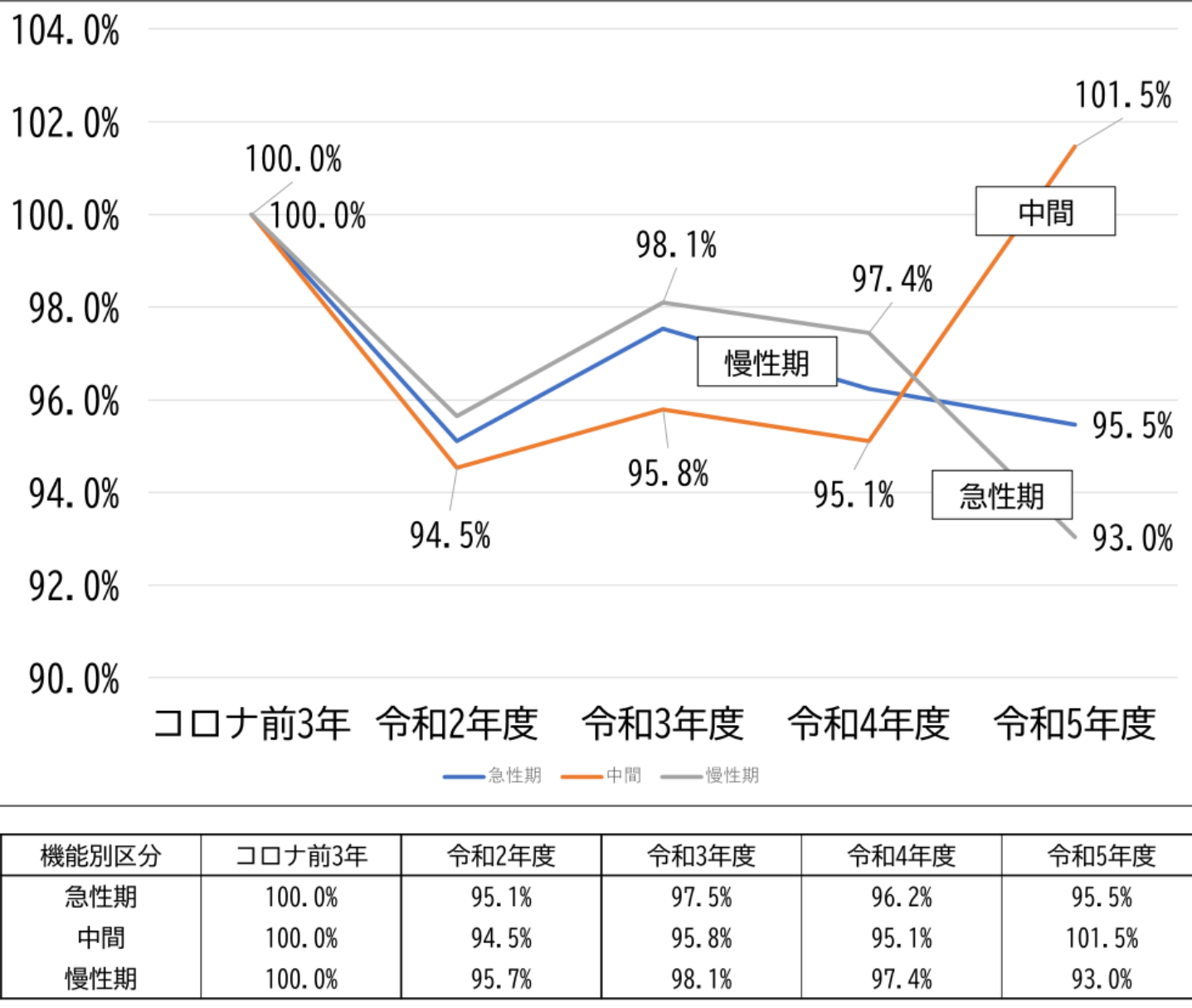


図2 コロナ後も外来数が戻らない石巻・登米・気仙沼医療圏、仙南医療圏は、東日本大震災後に人口減少が進んだ地域である。

図3 病床回転率（0.5回転、1回転で3分類）から病院の機能を急性期、中間、療養に区分した時の外来患者数の推移

【入院患者数の状況】

図4 宮城県全域・仙台市内

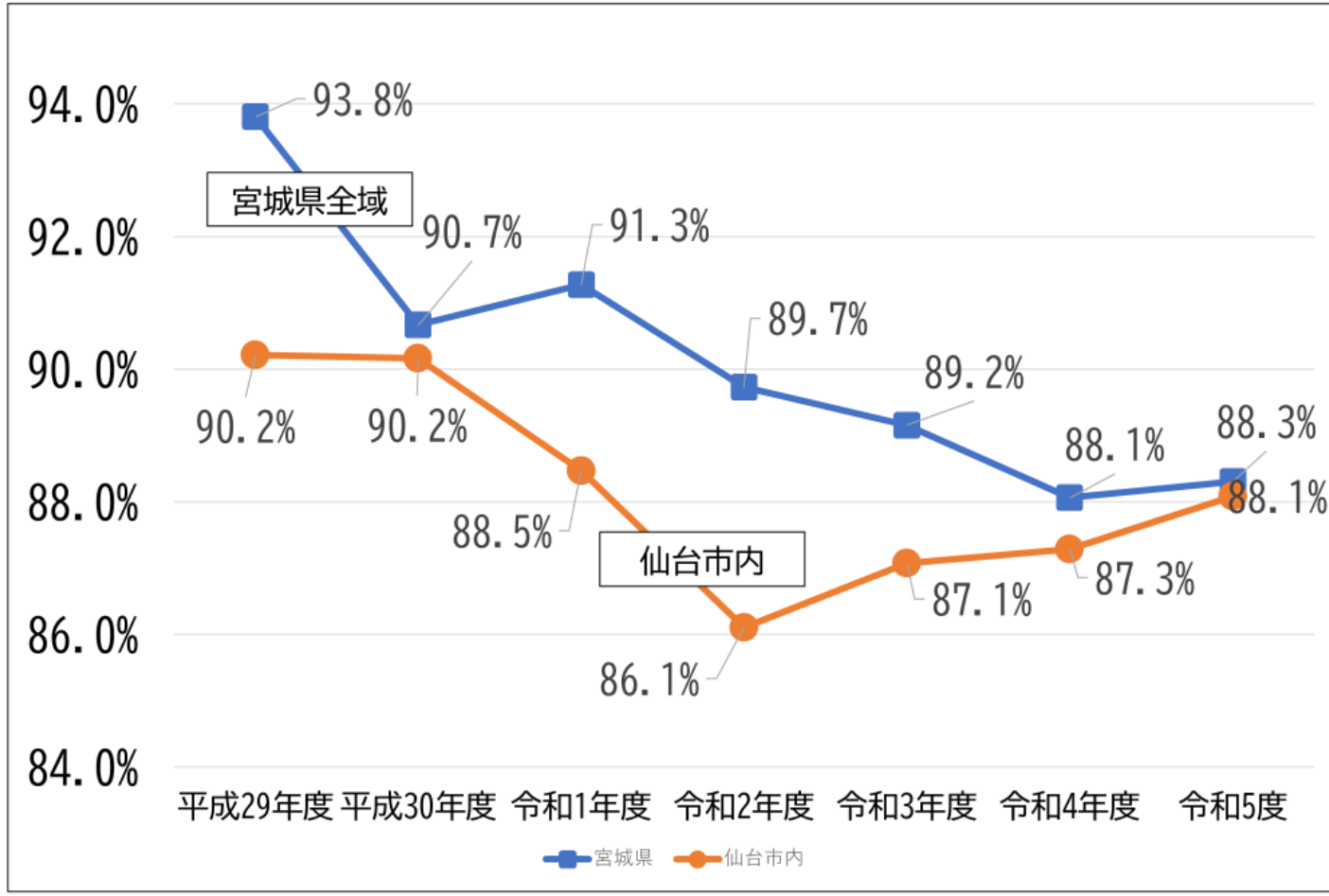


図5 医療圏別

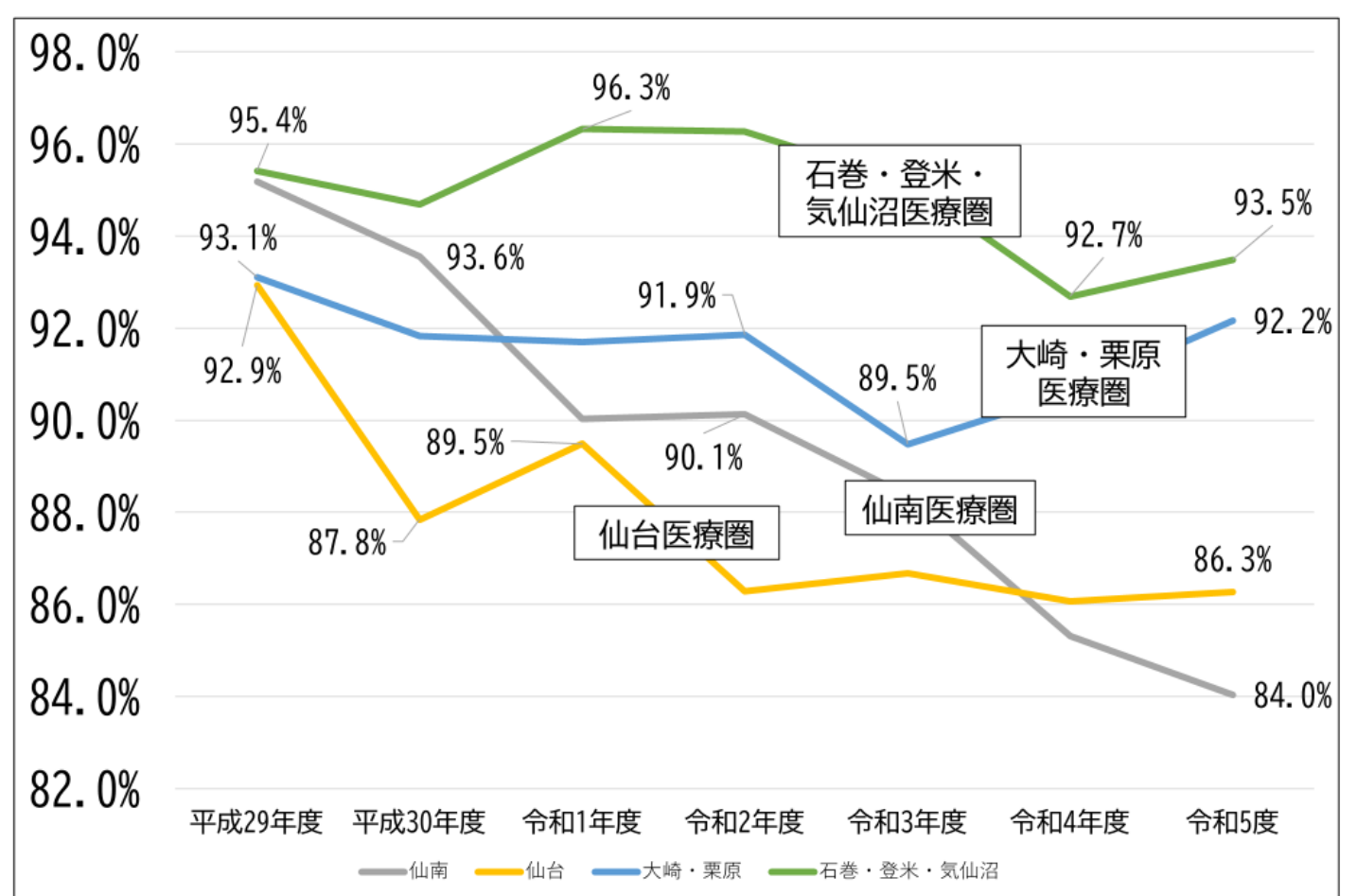


図4・図5 宮城県ではコロナ以前より、病床稼働率の低下傾向にあり、コロナでその下げ幅が大きくなった。仙台市内では、コロナ期で大きく落ちたが、コロナ後は幾分持ち直している。医療圏別では仙南医療圏の落ち込みが激しく、コロナ後も上昇の気配がない。

図6 病棟機能別

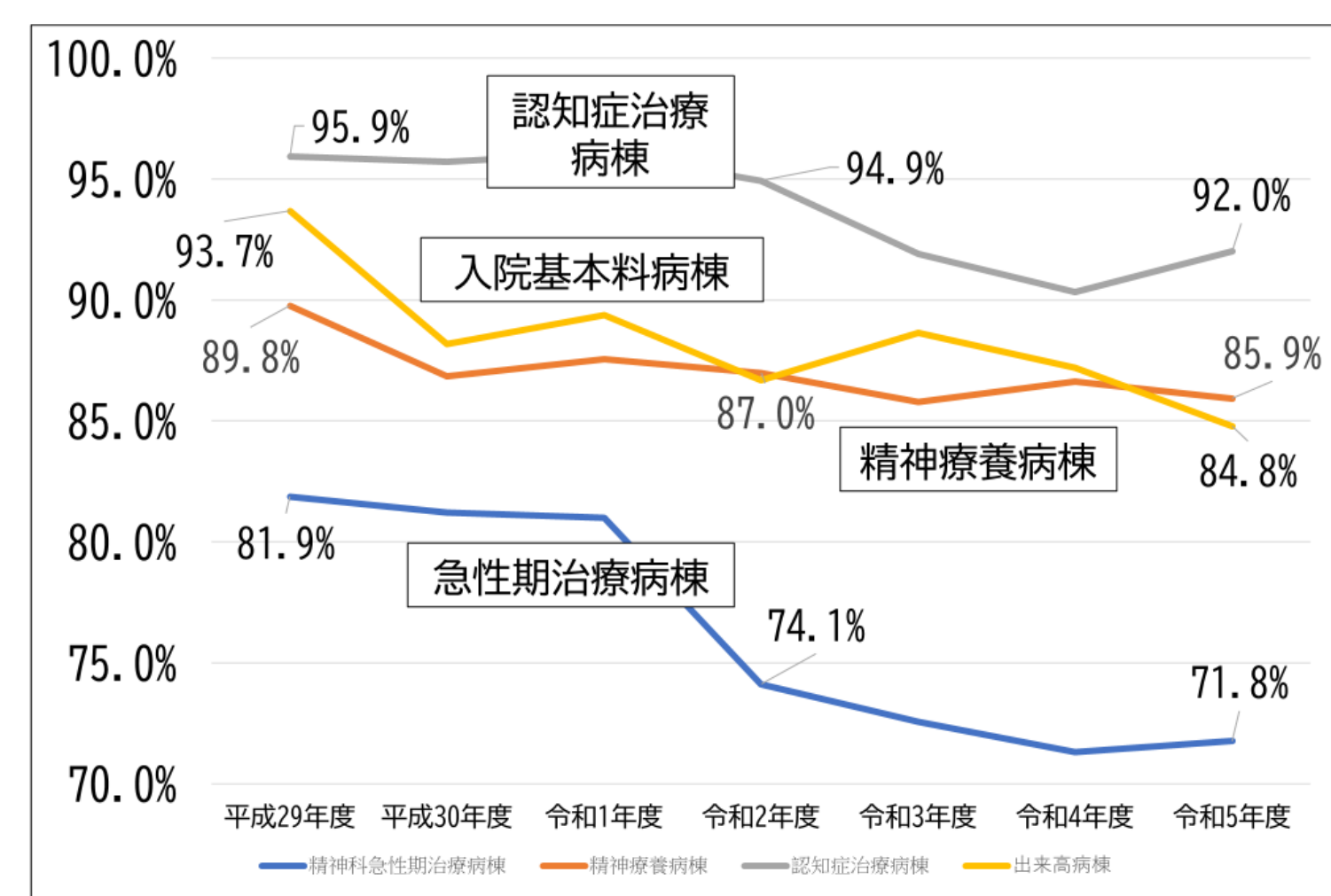
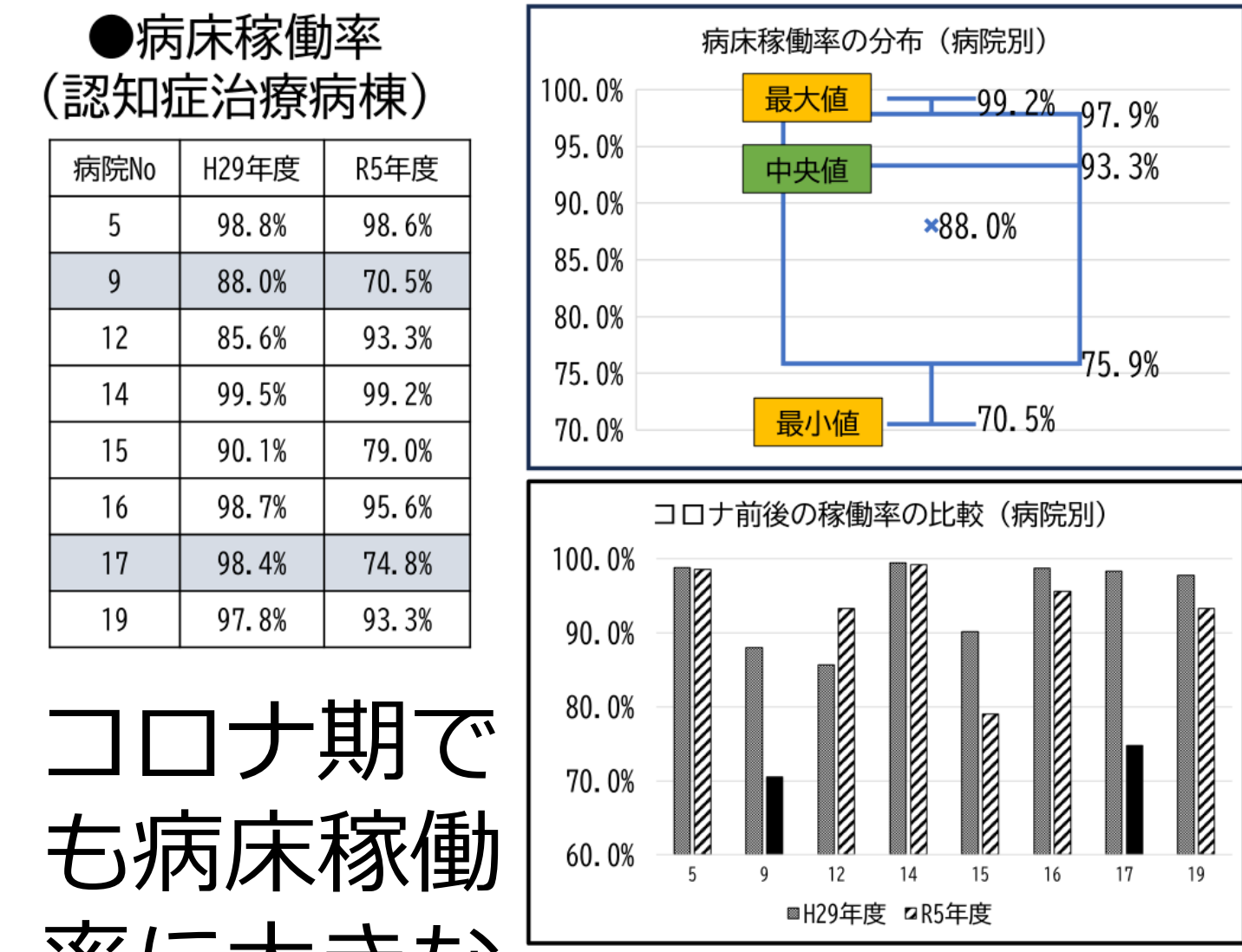


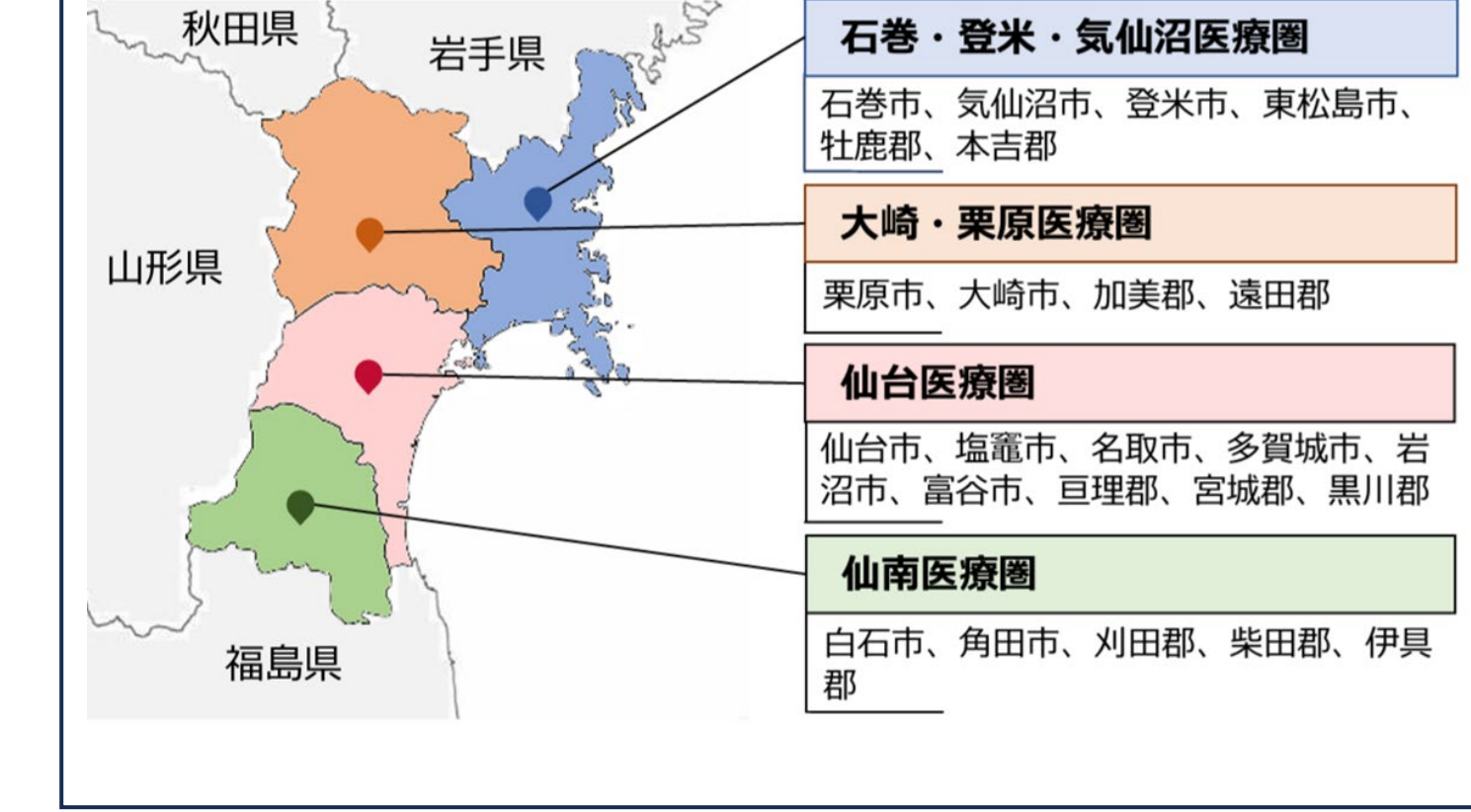
図7 認知症病棟の稼働率



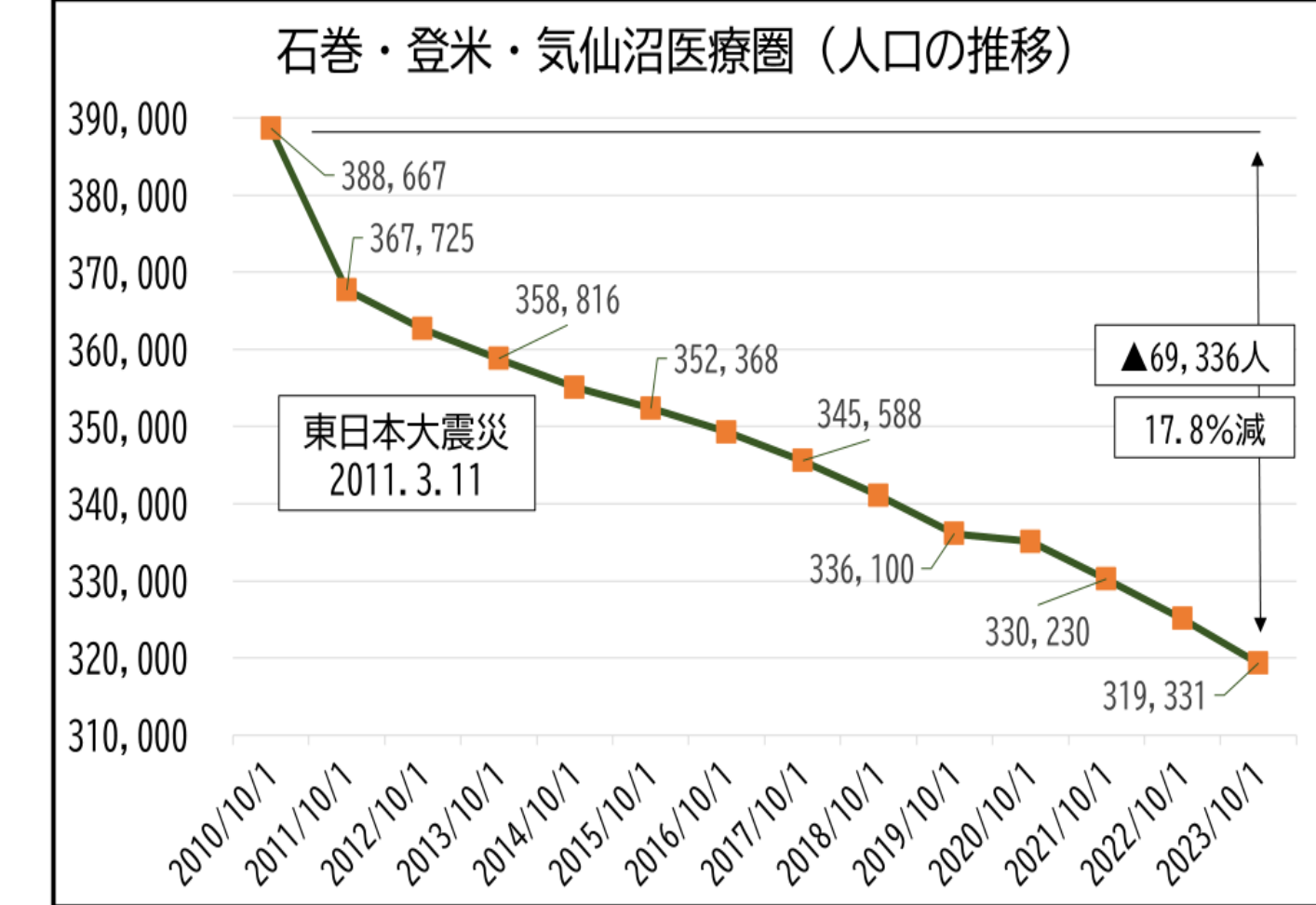
コロナ期でも病床稼働率に大きな変化がない病院が多いが、中央値から大きく外れている病院があり、これはコロナに関係ない要因があるかもしれない。

【参考】

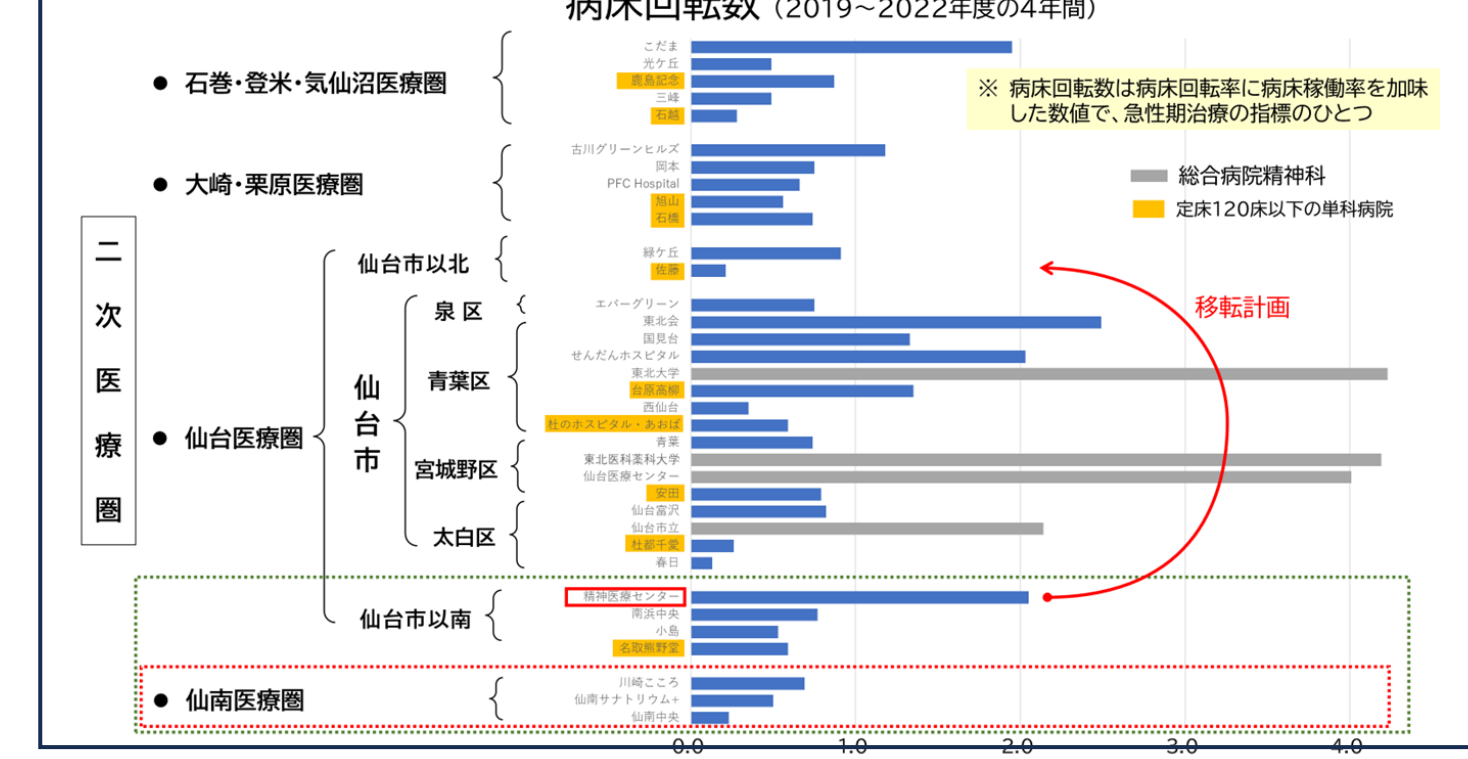
第8次宮城県地域医療計画



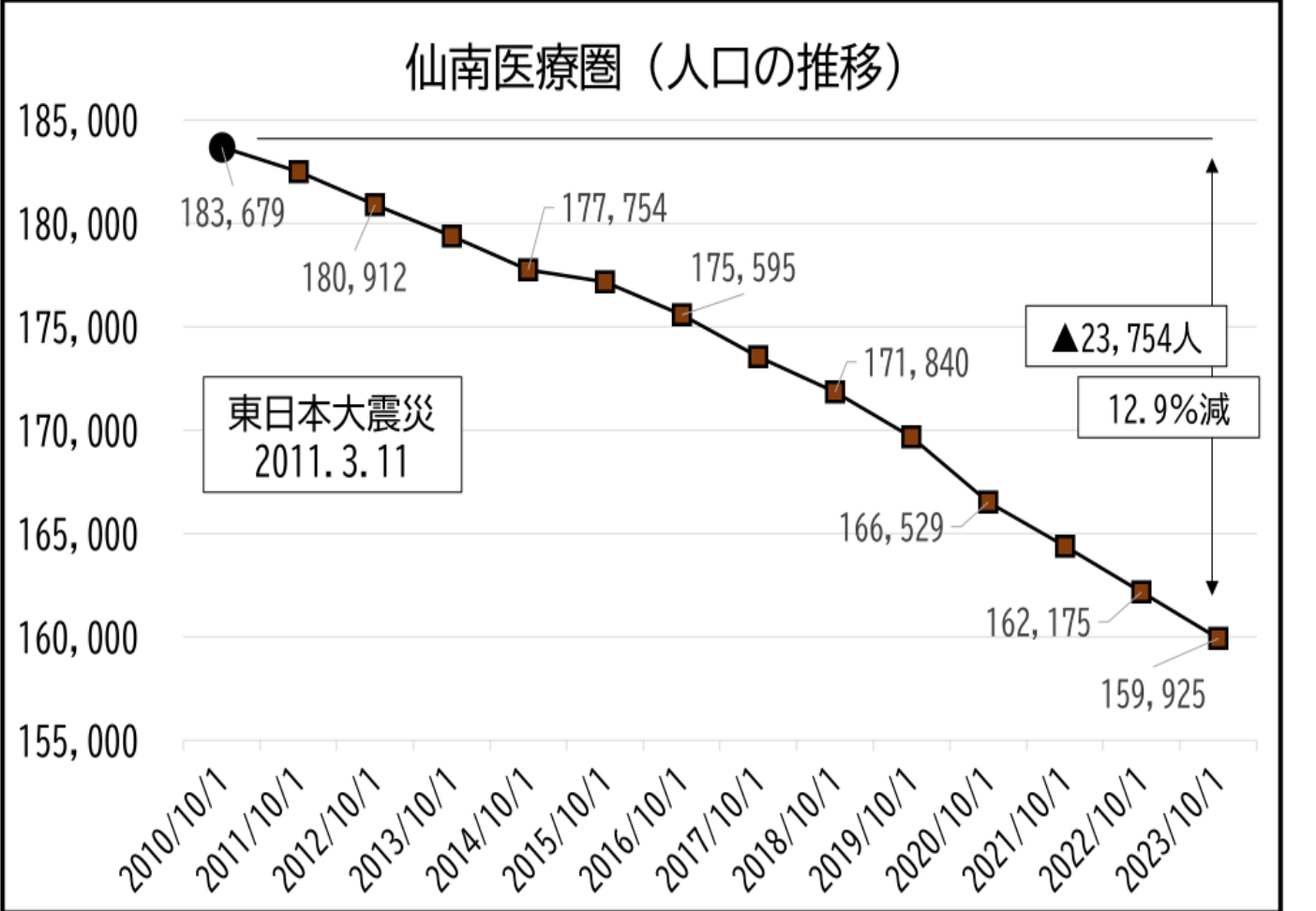
東日本大震災後の人口推移



精神科病院の病床回転数



※ 指定医会議資料を図解（岩嶋敏晴先生まとめ）



発表者のCOI開示
発表者：沼田周一（安田病院）
演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。